

高信頼性ICタグ

追求すると不思議な縁ができる

もともと宇佐美光雄は超大型計算機の半導体設計が仕事でした。設計する半導体チップも集積度を上げるため、超大型です。それがどうして超小型のRFIDチップの仕事に進んだのか不思議な縁を感じます。

何事もきっかけはあるものです。宇佐美光雄は超小型チップの前に超薄型ICカードの発明者でもありました。ICカードの世界に入ったきっかけです。超大型チップの欠陥救済の方法を追求しているときに、超薄型チップの概念にぶつかったのです。

フロアのタイルを思い浮かべて下さい。一部のタイルが剥がれてもフロア全部のタイルを張り替える人はいません。大型チップの一部が欠陥でもその部分だけを超薄型の半導体チップで張り替えればよいのではないかと考えたのです。

まさかその薄型チップが薄型ICカードの発明にいたるとはその時考えなかったのですが、応用を真剣に考えた結果だったと思います。

ひとつの技術から次の応用を考えると不思議な縁ができるものでございます。